

# 幻の導体、ドイツプフォーミング無酸素銅による マグネシウムシールドケーブルが登場

ティグロンより、ドイツプフォーミング方式で製造された無酸素銅を導体を使用し、シールド層に最新の第三世代マグネシウムシールドを採用したインターコネクトケーブルが登場した。いままでオーディオ界で着目されていなかった製法で作られた導体。その実力はいかなるものか？本ケーブルの魅力を一いち早く評価する柴崎 功氏による徹底レポートをお届けしよう。

Text by  
**柴崎 功**  
Isao Shibazaki

## 米国GE社が開発した製法でWE製品の内部配線でも採用

長い歴史がありながら、国内初の量産モデルとなるドイツプフォーミング無酸素銅(DF-OFC)を芯線導体に導入し、かつ第三世代マグネシウムシールドを併用したインターコネクトケーブルが、MS-DF12R/MS-DF12Xの後継となる「MS-DF12R」と「MS-DF12X」である。

ドイツプフォーミング製法は、鉄線の周りに銅を付着させた銅被覆鉄線のように、異種金属同士を合体させた線材を作る製法であり、銅の種類に溶けた銅を付着させたドイツプフォーミング無酸素銅がDF-OFCである。具体的には、表面の酸化層を剥ぎ取った銅の種類を千数百度の溶銅炉に通し、種線を銅を付着させて太い製造ロッドを作成。これを圧延機に通して荒引き線と種線を同時に作り、新しい種線を溶銅炉に戻して新たな製造ロッドを作るという工程を繰り返す。そして酸化を防ぐため、

一連の工程は還元雰囲気中で行われる。これにより品質が安定し、不純物の少ない4N無酸素銅が製造できるそうだ。ドイツプフォーミングは米国GE社が開発した製法で、ウエスタンエレクトロニック製品の内部配線にドイツプフォーミング銅線が使われている。日本では昭和電線が1969年にGEからドイツプフォーミングシステムを購入し、無酸素銅グレードC1020の4Nドイツプフォーミング材を三重県で製造している。

## DF-OFCの極細撚り線にマグネシウムシールドを投入

「MS-DF12R」は、アース電極から渦電流や迷走電流を追放したオーストラリアKLEI社のカッパーハーモニーRCAプラグを採用したピンケーブルで、線材にはDF-OFCの極細撚り線(0.18mm径極細銅素線を6本撚り合わせ、それを7束ロープ撚りにした線)に耐熱PVCを被せた2本の芯線の上に、2つの耐熱PVC中間シースを順次介して、横巻き銅シールドとマグネシウムシールド(0.1mm厚で6mm幅のAZ31マグネシウム合金箔の非オパーラップ巻き)の層を設け、外被にはメタリックグレーの耐熱PVCを用いた外径8.5mmの2芯マグネシウムシールドケーブルを投入。

## 旧モデルとは異次元の差 透明感や情報量が激増する

試聴結果は、両ケーブルとも旧モデルとは異次元の高音質に進化したのが印象的で、S/N感、奥行き感、透明感が格段に向上して過渡的な情報量が激増。しかも演奏や歌が伸び伸びし、アナログ的で非常にノリが良い。「MS-DF12R」は価格が2.4倍の上級モデルMGL-R10に肉薄するクオリティだ。「MS-DF12X」はさらに高音質で、上級モデルMGL-X10を凌ぐどころか、私がリファレンスにしているバランスケーブルを、写実性の面でも音楽性の面でも凌いでいる。

「MS-DF12X」の唯一の欠点は、サウンドクオリティに対して価格設定が安すぎる点である。「3万2000円のXLRケーブルが、十数万円もする超高級ケーブルを凌ぐ音質だ」と書いても誰も信じないだろう。だが信じる読者は救われる！耳が肥えた人にお薦めしたい逸品だ。



## TIGLON MS-DF12R/12X

RCA/XLRインターコネクトケーブル ともに¥32,000(1mペア/税別)

- 導体：DF-OFCの極細撚り線(0.18mm径極細銅素線を6本撚り合わせ、それを7束ロープ撚りにした線)+耐熱PVC
- シールド：横巻き銅+マグネシウムシールド●外被：耐熱PVC